

島根県立大学
地域政策学部 地域政策学科
経済経営・デジタルマネジメントコース

令和8年度（2026年度）
学校推薦型選抜（一般推薦）

総合問題

【解答時間 90分】

以下の1から8をよく読んで指示に従うようにしてください。指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。許可なく問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから6ページにあります。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は3枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は3枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 試験時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第1問 次の資料は、中小企業庁編「2025年版中小企業白書・小規模企業白書」に掲載された企業事例である。この資料を読んで、以下の問い（問1～7）に答えなさい。

～伝統工芸の技術継承と人材育成に⁽¹⁾ AI を活用している企業～

岩手県（ 2 ）市のタヤマスタジオ株式会社は、400年以上の歴史を持つ伝統的工芸品である南部鉄器を製造・販売する企業である。2018年に厚生労働省から「卓越した技能者（現代の名工）」に選ばれた田山和康氏を父に持つ田山貴紘社長が、2013年に設立した。南部鉄器は^(ア) セイコウで硬派な作りが特徴で、その製造技術は職人の繊細な感覚に頼るところが多く、火に当たった際の音や色などが暗黙知として継承されてきた。そのため、技術継承は熟練のベテラン職人によるOJT^(注1)指導が一般的で、若手職人が一人前になるまで10年ほどの長期間を要していた。ベテラン職人が指導を丁寧に行うほど、鉄器製造に^(A) 割く時間が（ 3 ）して生産性が（ 4 ）してしまうほか、若手職人の戦力化に時間が掛かることも経営面では負担となっており、職人育成と生産性向上の両立が課題だった。

田山社長は「若手職人が早期に付加価値を生み出せる環境を整備することが経営と技術継承のカギ」と考え、2018年に新製品「あかいらんご」の開発に着手。「あかいらんご」は田山社長が考案した、表面に模様を持たないシンプルなデザインの鉄瓶であり、高度な技術が必要で習熟に時間が掛かる「模様押し」の工程を^(B) 省いた簡易な作りにした。若手職人でも基礎的な技術の活用だけで完成まで一貫して対応できる製品を開発したことで、技術習得が容易になり、人材育成の簡略化と量産体制の構築を進めた。

（ 5 ）、2023年から取り組んでいるのが技術継承へのAIの活用だ。2018年に参加したAI導入促進のワークショップから^(イ) チャクソウを得た後、2019年にAIを活用した技術継承を支援する事業を行う（ 2 ）市出身の経営者との出会いを契機に、同社と岩手大学との共同研究が開始。昨年には（ 2 ）市の補助金を活用して実証実験も行っており、和康氏へのヒアリングを基に、鑄造^(注2)の基本から南部鉄器の不良発生のメカニズムなどを工学的知見も含めて学習させることで、熟練のベテラン職人の思考をモデル化し、若手職人が製造技術やノウハウの基礎的な部分をAIから自主学習できるようにした。これらの取組を通じて、経験や感覚に基づく⁽⁶⁾ 暗黙知を形式知に変換し、効率的な技術継承が可能となる仕組みづくりを進めている。

「あかいらんご」の開発とAI活用により、現在は入社3年目の若手職人が、製品を一人で完成させている。田山社長の発想の転換が生み出した「あかいらんご」は、模様押しの工程省略により価格も抑えられ、かつ、手に取りやすい価格と生活になじみやすいデザインという従来の南部鉄器と異なる特徴が注目されて顧客の^(c) 裾野を広げることにも成功した。AI活用を通じては、年齢の離れた職人間のコミュニケーションの質の向上や、ベテラン職人の指導時間の減少といった効果も見え始めているという。現在は、鑄造などの基礎的な技術・ノウハウにとどまるが、今後は着色や火入れ具合など高度なノウハウの継承にもAIを活用できるように^(ウ) シコウサクゴを続けている。「過去

からの積み重ねは早く習得するのが責任だという意識で、技術習得の仕組みづくりを行っている。『あかいらんご』と AI 活用を組み合わせ、新たな積み重ねを行い、伝統工芸を高度化させていきたい」と田山社長は語る。

(設問のため文章を一部変更した)

(注1) OJT On the Job Training の略。職場の上司や先輩が部下や後輩に対して、実際の仕事を通じて指導し、知識や技能などを習得させる教育方法のこと。

(注2) 鋳造 熱で溶かした金属を鋳型(いがた)に流し込んで器物をつくること。

問1 課題文中の下線部(ア)～(ウ)を漢字で丁寧に記しなさい。

問2 課題文中の下線部(A)～(C)の漢字の読み方をカタカナで丁寧に記しなさい。

問3 課題文中の下線部(1)について、「AI」は何の略語か。英語で丁寧に記しなさい。また、「AI」は日本語で一般にどう呼ばれているか。漢字で丁寧に記しなさい。

問4 課題文中の空欄(2)には県庁所在地が入る。漢字で丁寧に記しなさい。

問5 課題文中の空欄(3)と空欄(4)に入る語句の組み合わせとして最もふさわしいものを①～④から一つ選び、番号で答えなさい。

① (3) 増加 (4) 向上

② (3) 減少 (4) 向上

③ (3) 増加 (4) 低下

④ (3) 減少 (4) 低下

問6 課題文中の空欄(5)に入る言葉として最もふさわしいものを①～⑤から一つ選び、番号で答えなさい。

① つまり

② そこで

③ しかし

④ さらに

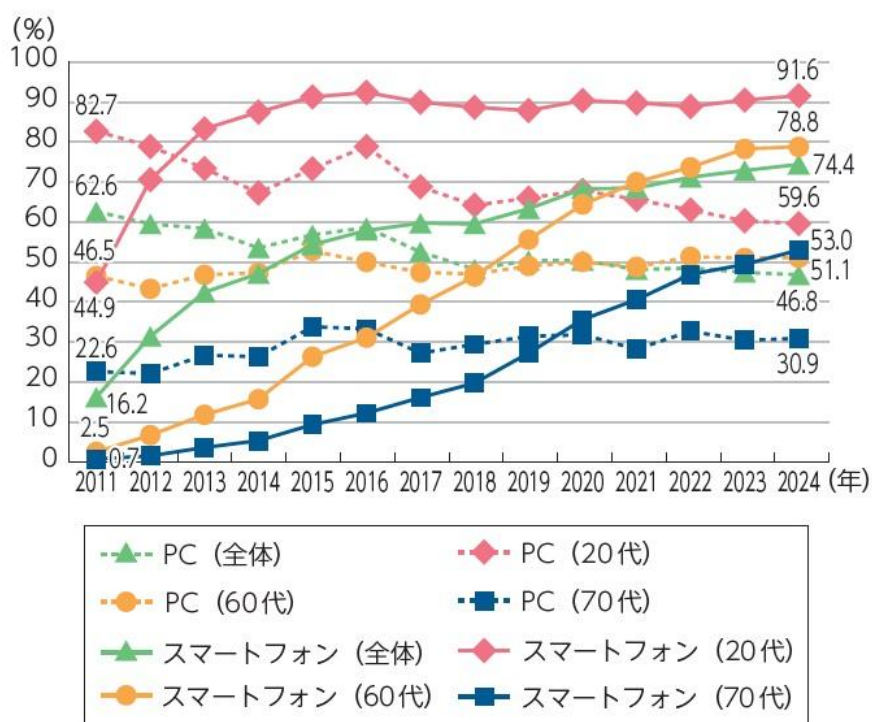
⑤ 一方

問7 課題文中の下線部(6)はどういうことか。文中の語句を使い60字以上70字以内で説明しなさい。

第2問 日本における世代ごとの情報通信の利用状況および総合的な ICT 政策の推進に関する以下の問い（問1～2）に答えなさい。

問1 総務省編「令和7年版 情報通信白書」に掲載された、インターネット接続端末としての利用率の推移を示した図1、SNSの利用率の推移を示した図2、「情報源として欠かせない」とした人の割合を示した図3、それぞれを参照し、後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

図1 インターネット接続端末としての利用率の推移（パソコン、スマートフォン）

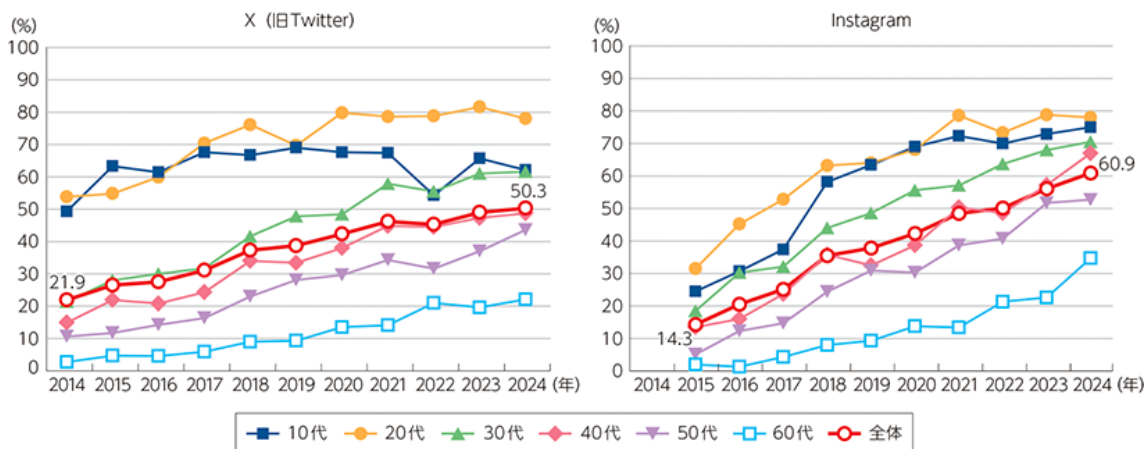


(注) 上図の PC について、2016 年以前は「自宅のパソコン」のことを指す。

(資料) 総務省「通信利用動向調査」を基に作成

(出所) 総務省編「令和7年版 情報通信白書」

図2 SNSの利用率の推移（X、Instagram）（年代別）

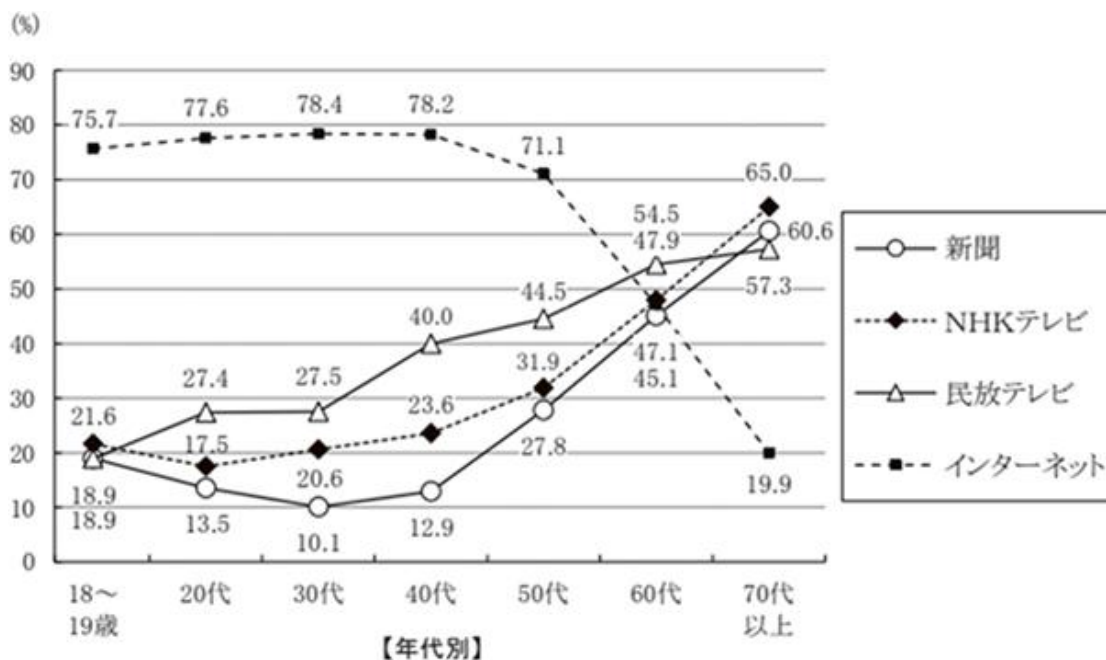


(注) 2024 年の全体の利用率は、10 代から 60 代までの利用率から算出

(資料) 総務省「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」を基に作成

(出所) 総務省編「令和 7 年版 情報通信白書」

図3 「情報源として欠かせない」とした人の割合（年代別、2024 年）



(資料) 新聞通信調査会（2024）「第 17 回メディアに関する全国世論調査」

(出所) 総務省編「令和 7 年版 情報通信白書」

(1) 図1を見て、2011年から2024年までのPC（全体）の利用率がどのように推移しているか。スマートフォン（全体）の推移と比較しながら90字以内で述べなさい(句読点やカッコも字数に含める。2桁以上のアラビア数字を使用する場合は、1マスに2文字を入れる)。

- (2) 図1を見て、2011年から2024年までの60代、70代のスマートフォンの利用率がどのように推移しているか。各世代の特徴を80字以内で述べなさい(句読点やカッコも字数に含める。2桁以上のアラビア数字を使用する場合は、1マスに2文字を入れる)。
- (3) 図2を見て、各世代のX(旧Twitter)とInstagramの利用率を比較し、2024年時点で世代間の利用率の格差が大きいのはどちらかを答えなさい。そのうえで、格差が大きいと判断した理由を90字以内で述べなさい(句読点やカッコも字数に含める。2桁以上のアラビア数字を使用する場合は、1マスに2文字を入れる)。
- (4) 図3を見て、年代ごとの「情報源として欠かせない」とした人の割合から、30代と60代の情報源の特徴を読み取り、110字以上130字以内で述べなさい(句読点やカッコも字数に含める。2桁以上のアラビア数字を使用する場合は、1マスに2文字を入れる)。

問2 総務省編「令和7年版 情報通信白書」に掲載された、総合的なICT政策の推進に関する文章を読み、後の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (X) 我が国の出生数は2016年から減少が続くなど、我が国の少子高齢化の問題は深刻さを増しており、今後も人口減少が続くことが見込まれている。特に^(A)生産年齢人口の減少により人手不足が年々深刻化しており、特に地方の疲弊や衰退、将来の経済や市場規模の縮小による経済成長率の低下などに影響することが懸念されている。また、日本経済は、長期的な停滞が続き、労働生産性も低迷している。デジタル技術は、このような課題の解決に大きな役割を担っており、例えば、AIやロボットをはじめとするデジタル技術がさらなる進展をとげ、社会に浸透・活用されることで、労働力不足の解消、生産性向上や競争力強化による経済活性化につながることを期待されている。また、テレワーク・サテライトオフィスなどの活用により場所の制約を受けずに就業する選択肢を広げることが期待されている。
- (Y) 近年、我が国では気候変動の影響等により激甚な気象災害が頻発しており、また、南海トラフ地震、首都直下地震などの大規模地震の発生も切迫しているとされる。こうした災害発生時には、ICTを活用することにより災害関連情報の収集と避難情報等の提供を正確に行うとともに、迅速な通信の復旧、継続的な通信サービスの継続等が求められている。また、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラ^(注1)は、今後急速に老朽化することが懸念されており、インフラの維持管理・更新を戦略的に実施することが喫緊の課題となっている。一方、少子高齢

化の進行等により労働供給が減少している状況下においては、インフラの維持に人手をかけることも困難となっていることから、^(B) デジタル・新技術の徹底活用による取組の推進が重要となっている。

- (Z) ロシアによるウクライナへの侵攻等の地政学的な緊張の高まり、世界経済の不透明さの拡大、重要インフラに対する国境を越えたサイバー攻撃や偽情報の拡散等、我が国を取り巻く国際情勢は不確実性や不透明さが増している。このような中、2022年5月に成立した「経済施策を一体的に講ずることによる安全保障の確保の推進に関する法律」(令和4年法律第43号)においては、特定社会基盤役務の安定的な提供の確保に関する^(C) 制度の対象となり得る事業分野として「電気通信事業」「放送事業」「郵便事業」が挙げられており、今後同制度が実効的に運用されるよう、着実に取り組むこととしている。また、膨大なトラヒック^(注2)を支える大容量・高速通信ネットワークや莫大なデータ処理に対応する計算資源等が必要となるAI・DX時代において、経済安全保障の観点からも、デジタル分野における我が国の自律性の確保が重要な課題となる中で、我が国のデジタル分野の国際競争力の向上に向けた取組の推進が必要となっている。

(設問のため文章を一部変更した)

(注1) インフラ インフラストラクチャーの略語。交通、通信、エネルギー、水道など、生活や産業の基盤となる施設や設備のこと。

(注2) トラヒック ネットワーク上で送受信されるデータの量や流れのこと。

- (1) 下線部(A)に「生産年齢人口」とあるが、これはどのような人口のことか。段落(X)に書かれている内容を参考にしながら、50字以内(句読点やカッコも字数に含める)で述べなさい。
- (2) 段落(X)の内容を130字以上150字以内(句読点やカッコも字数に含める)で要約しなさい。
- (3) 下線部(B)に「デジタル・新技術の徹底活用」とあるが、これら技術の活用がなぜインフラ維持の問題解決につながるのか。文章を参考にしながら、90字以内(句読点やカッコも字数に含める)で理由を述べなさい。
- (4) 下線部(C)で挙げられている「電気通信事業」「放送事業」「郵便事業」について、我が国を取り巻く国際情勢の不確実性や不透明さが増している中で、これら事業における役務の安定的な供給が、なぜ重要だと考えられているのか。段落(Z)の文章を参考にしながら、100字以内(句読点やカッコも字数に含める)で述べなさい。